

ID No.	327
研究課題名	免疫系と血栓・凝固系とのクロストークによる臓器特異的ホーミングの制御
研究代表者	島岡 要 (三重大学大学院・教授)
研究組織	
受入教員	清野 宏 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	Eun Jeong Park (三重大学・准教授)
	岡本 貴之 (三重大学・助教)
	幸 義和 (東京大学医科学研究所・助教)
研究報告書	
	<p>本研究では島岡研の細胞接着に対する専門性と清野研の粘膜免疫・ワクチン開発に関する専門性との双方を活かし、感染症、担癌状態、動脈硬化などに起因する慢性炎症と凝固系異常が臓器特異的リンパ球ホーミング、とくに腸管リンパ節特異的ホーミングに与える影響を明らかにする。重要な凝固系制御因子であるthrombomodulin (TMがインテグリンを介した細胞接着と移動・シグナリングに与える影響を解析する。TMがインテグリンと相互作用する様式を明らかにし(論文作成中)、生理的フロー下でのリンパ球:血管内皮の細胞接着に与える影響を解析する。また免疫系と血栓・凝固系とのクロストークにおける腸管上皮細胞の役割を解析中であり、とくに凝固系制御因子を含めた炎症・凝固に関わる分子群のマイクロRNAによるエピジェネティック制御を腸管上皮細胞で検討中である(論文作成中)。</p>